

身体名称に関する慣用表現の類似性と相違性

—— 日・英・韓の比較に見る ——¹

吉 川 寛

1. はじめに

英語が広く世界に広まるにつれて、英語に国際共通語としての役割を求める考えが強くなってきている。しかしながら、多様な英語変種の誕生により統語、音韻、意味の各部門での相違も多様化しているのが現状である。多様な英語変種をその話者のアイデンティティーのシンボルとみなすのが基本的コンセプトである国際英語論の立場では、英語の国際的な intelligibility をどのように確立するかは愁眉の課題である。Gimson (1978)、Jenner (1997)、Hung (2002) は、音声面での intelligibility についての提言がある。Jenkins (2003) では、音声と語彙構造についての検討がなされ Lingua Franca Core の構築を提唱している。意味の領域においては、慣用表現の使用を原則制限するという鈴木 (1985) の提案や、基本的には全変種の慣用表現を是認する立場をとる本名 (2000) の提案がある。吉川 (2005) では、慣用表現の使用についての学習ストラテジーを提案し、意味の分野における英語の international intelligibility を目指す試論を展開している。本論文では、日本語、韓国語、英語に見られるいくつかの身体名称に関する慣用表現を比較対照し、その類似性と相違性を探り、英語を共通語とするコミュニケーションの場での慣用表現使用の可否を論ずる。

2. 慣用表現の意味の透明性

慣用表現には、共通する普遍的な意味特性の故に比較的解釈が容易なものから、固有の文化に深く根ざしているもので解釈が容易でないものまで様々である。言語的な類似性と意味的な類似性の観点から日本語と英語の身体名称に関する慣用表現を以下のように分類できる。

- +L＝言語的類似性がある (Linguistic similarity)
- －L＝言語的類似性がない (Linguistic dissimilarity)
- +S＝意味的類似性がある (Semantic intelligibility)
- －S＝意味的類似性がない (Semantic unintelligibility)

| | 英 語 | 日本語 | 類似性 | 意味の透明性 |
|--------|----------------------------|------------|----------|--------|
| Type A | to shut one's mouth | vs. 口を閉じる | (+L, +S) | 高 |
| Type B | to stand on one's own feet | vs. (該当なし) | (-L, +S) | 高 |
| Type C | to scratch one's head | vs. 頭を掻く | (-L, ±S) | 中 |
| Type D | to get one's head down | vs. 頭を下げる | (+L, -S) | 低 |
| Type E | to play it by ear | vs. (該当なし) | (-L, -S) | 低 |

Type A の英語の慣用表現 *to shut one's mouth* に対応する日本語「口を閉ざす」は言語的にも等しいし、意味的にもほぼ同じと言える。よって類似性は (+L, +S) となり意味的な透明度は高くなる。このような慣用表現の使用はコミュニケーションにおいて殆ど誤解を生じさせないと言える。

Type B の *to stand on one's own feet* (自立する) には対応する日本語の慣用表現は存在しないが、意味を類推することは可能である。類似性は (-L, +S) であるが、意味的な透明度は高くなるのでこのような慣用表現の使用は Type A と同様、英語でのコミュニケーションにも誤解を生じる可能性は低いと言える。

Type C は、英語の *to scratch one's head* には日本語の「頭を掻く」が言語的には対応する。しかし、英語では「困惑する」の意味であるのに対し日本語は「困惑する」の意味もない訳ではないが主として「照れる」の意味であるので意味範囲がずれる可能性がある。類似性も (-L, ±S) となり意味の透明性もそれほど高くない。このような場合はコミュニケーションに誤解を生じさせる可能性があるので使用には注意が必要である。しかし、このような慣用表現は余り数が多くなく、対応はそれほど困難ではないであろう。

Type D の *to get one's head down* に対して日本語にも言語的に同じような慣用表現である「頭を下げる」が存在する。しかしながら、英語の「仕事を再開する」の意味は日本語の「謝罪する」とはまったく異なり類推できない。類似性は (+L, -S) となり意味的な透明度は低い。このような慣用表現は自文化での意味解釈をすることによりコミュニケーションで誤解を生じさせる。何らかの対応は必須である。

Type E の *to play it by ear* (臨機応変にやる) は、言語的にも意味的にも日本語には対応するものがない。類似性は (-L, -S) となり意味の透明性も低い。このような慣用表現が使用されると、理解不可能であるのでコミュニケーションは中断されるが少なくとも誤解は生じさせない。

以上のような分類基準を使って英語、韓国語、日本語の「顔」、「頭」、「足」、「鼻」の4つの身体名称に関する慣用表現を分析した。

3. 身体名称の分析

「頭」「顔」「足」「鼻」の四つの身体名称に関する慣用表現の類似性と相違性について

分析を行ったところ類似性の高いものと低いものの2つのグループに分類できた。

3.1 類似性の高い慣用表現

3.1.1 「顔」に関する慣用表現

「顔」に関する慣用表現は、下記の表1にあるように、日本語、英語、韓国語ともほぼ同数である²。

| 顔に関する慣用表現 | | |
|-----------|-----|----|
| 日本語 | 韓国語 | 英語 |
| 46 | 43 | 45 |

表1

次に、日本人英語話者から見た韓国語、英語の慣用表現に対する類似性の比較例を以下の表2に示す³。

| | 日本語 | 韓国語 | 英語 |
|---|---------|---------|-----------------------------|
| 1 | 顔を出す | (+L +S) | (+L +S) |
| 2 | 顔が広い | (+L +S) | (-L -S) |
| 3 | (-L +S) | 顔が熱い | (-L -S) |
| 4 | (-L -S) | 顔がかゆい | (-L -S) |
| 5 | (-L +S) | (-L +S) | to have a face like thunder |
| 6 | (-L -S) | (-L -S) | to have a long face |

表2

日本語の「顔を出す」は韓国語にも言語的、意味的に同じ表現がある。英語には *to show one's face* がほぼ対応する。「顔が広い」は韓国語に同様な表現があるが英語には見当たらない。

韓国語の「顔が熱い」は「恥ずかしい」の意味であるが、日本語の「顔から火が出る」の類推で解釈は可能であろう。「顔がかゆい」も「恥ずかしい」の意味であるが類推は難しいであろう。英語の *to have a face like thunder* は「ひどく怒った顔つきで」の意味であるが、*thunder* の類推から意味の憶測は可能であろう。*to have a long face* は学習しなければ理解は不可能であろう。

このような分析を全ての「顔」の慣用表現で行い以下のような結果を得た。まず、日本人英語話者から見た韓国語と英語の慣用表現への類似性は表3のようであった。

| (+L +S) の数 | | (+L +S) と (-L +S) の数 | |
|------------|----|----------------------|----|
| 韓国語 | 英語 | 韓国語 | 英語 |
| 26 | 6 | 30 | 15 |

表 3

百分率で表すと以下の表 4 のようになる。

| (+L +S) の% | | (+L +S) と (-L +S) の% | |
|------------|---------|----------------------|---------|
| Korean | English | Korean | English |
| 60.5 | 13.3 | 69.8 | 33.3 |

表 4

結果から先ず言えることは、日本語と韓国語の類似が非常に高いということである。
 (+L +S) が 26 あり、(-L +S) も含めると 30 となる。日本人英語話者は英語で提示される韓国語の顔の慣用表現の 69.8% が理解できるということである。次に英語との比較であるが、韓国語ほど高くはないが、それでも 3 分の 1 は +S となった。Type E に相当すると考えられるものが 15 あるので、それと合わせれば 70% 近くの慣用表現がコミュニケーションに誤解を生じさせないことになる。

3.1.2 「頭」に関する慣用表現

「頭」に関する 3 言語の慣用表現の総数は以下表 5 の様である。

| 頭に関する慣用表現 | | |
|-----------|-----|----|
| 日本語 | 韓国語 | 英語 |
| 41 | 34 | 78 |

表 5

類似性の比較例は以下の表 6 に示す。

| | 日本語 | 韓国語 | 英語 |
|---|---------|-----------|---------------------------------|
| 1 | 頭を使う | (+L +S) | (+L +S) |
| 2 | 頭に浮かぶ | (+L +S) | (-L -S) |
| 3 | (-L +S) | 頭を向かい合わせる | (-L -S) |
| 4 | (-L -S) | 頭が大きい | (-L -S) |
| 5 | (-L +S) | (-L +S) | to hold a gun to someone's head |
| 6 | (-L -S) | (-L -S) | to bring to a head |

表 6

日本語の「頭を使う」は韓国語にも全く同じ表現が存在する。英語の *to use one's head* も言語的、意味的に同じである。「頭に浮かぶ」は韓国語に同様な表現があるが英語には存在しない。韓国語の「頭を向かい合わせる」は「熟考する」の意味であるが、ある程度類推可能である。「頭が大きい」は「成人して言うことを聞かない」を意味するがそれを推測するのは無理であろう。英語の *to hold a gun to someone's head* は「脅す」の意味であるが理解可能である。*to bring to a head* は「重大な局面をもたらす」の意味であるが類推は難しいといえる。

このような分析から得られる日本人英語話者から見た韓国語と英語の慣用表現への類似性の分析結果は以下の表 7、8 である。

| (+L +S) の数 | | (+L +S) と (-L +S) の数 | |
|------------|-----|----------------------|-----|
| 韓国語 | 英 語 | 韓国語 | 英 語 |
| 23 | 10 | 26 | 20 |

表 7

| (+L +S) の% | | (+L +S) と (-L +S) の% | |
|------------|------|----------------------|------|
| 韓国語 | 英 語 | 韓国語 | 英 語 |
| 67.6 | 12.8 | 76.5 | 25.6 |

表 8

この結果から言えることは、「顔」と同様に韓国語との類似性が高いということである。意味解釈が可能なのは 76.5% で、Type E に属するものが 3 あるのでそれを含めば 85.3% の韓国語の「頭」に関する慣用表現は日本人英語話者にとってコミュニケーション時に意味解釈の障害にならないということである。英語の表現は、分母となる総数が多いので英語にとっての類似率は 4 分の 1 程度であるが、Type E に相当するのが 27 あるので、日本人にとっては、78 ある英語の「頭」に関する慣用表現の内 60% 近くはコミュニケーションに誤解を生じさせないことになる。

3.2 類似性の低い慣用表現

3.2.1 「足」に関する慣用表現

「足」に関する慣用表現は、「顔」と同様、表 9 にあるように 3 言語とも同じような総数である。

| 足に関する慣用表現 | | |
|-----------|-----|-----|
| 日本語 | 韓国語 | 英 語 |
| 49 | 42 | 44 |

表 9

類似性の比較例は以下の表 10 に示す。

| | 日本語 | 韓国語 | 英 語 |
|---|-----------|---------|--------------------------|
| 1 | 足を洗う | (+L +S) | (-L -S) |
| 2 | 足が地についている | (-L +S) | (+L +S) |
| 3 | (-L -S) | 足を切る | (-L -S) |
| 4 | (-L +S) | (-L +S) | to have itchy feet |
| 5 | (+L, -S) | (-L -S) | to drag one's feet |
| 6 | (-L -S) | (-L -S) | to sit at someone's feet |

表 10

「足」の慣用表現では 3 言語共通の類似表現はない。日本語の「足を洗う」は韓国語で言語的、意味的に同様の表現がある。「足が地についている」は、韓国語には同様の表現は無いが、英語には *to have one's feet on the ground* があり対応する。日本語の「手を切る」に当たる韓国語の「足を切る（縁を切る）」の理解は容易ではないであろう。英語の *to have itchy feet*（じっとしていられない）は意味の類推は可能であろう。英語の *to drag one's feet* は、日本語の「足を引っ張る」と言語的には同じであるが、意味は「しぶしぶ行う」となり Type D に当たるので注意が必要である。*to sit at someone's feet*（弟子になる）は類推が難しいので Type E に当たる。

上述の分析から得られる日本人英語話者から見た韓国語と英語の慣用表現への類似性の結果は以下の表 11、12 である。

| (+L +S) の数 | | (+L +S) と (-L +S) の数 | |
|--------------|-----|--------------------------|-----|
| 韓国語 | 英 語 | 韓国語 | 英 語 |
| 12 | 3 | 13 | 6 |

表 11

| (+L +S) の% | | (+L +S) と (-L +S) の% | |
|--------------|------|--------------------------|------|
| 韓国語 | 英 語 | 韓国語 | 英 語 |
| 28.6 | 13.6 | 31 | 14.6 |

表 12

この結果から「足」は「顔」、「頭」に比較して類似性が低いということが分かる。日本語と韓国語の間でも類似性はせいぜい三分の一である。英語との共通性は更に低く 14.6% である。韓国語との類似性が低いと英語についても同様に低いという相関が見られる。但し、Type E に当たるのが韓国語では 21、英語では 28 あるので韓国語では 80.1%、英語では 77.1% の「足」に関する慣用表現で意味の混乱を生じさせないことになる。

3.2.2 「鼻」に関する慣用表現

「鼻」に関する3言語の慣用表現の総数は以下の表13の様である。これまでの慣用表現に比べて数が少ない。鼻は身体部分として比較的限定された機能であるのでそれが原因と思われる。

| 鼻に関する慣用表現 | | |
|-----------|-----|----|
| 日本語 | 韓国語 | 英語 |
| 29 | 21 | 28 |

表 13

類似性の比較例は以下の表14に示す。

| | 日本語 | 韓国語 | 英語 |
|---|---------|-----------|------------------------|
| 1 | 鼻にかける | (+L +S) | (-L -S) |
| 2 | (-L +S) | 鼻が地に付くほどに | (-L -S) |
| 3 | (-L -S) | 鼻を落とす | (-L -S) |
| 4 | (-L +S) | (+L +S) | nose to nose |
| 5 | (-L -S) | (-L -S) | to make a long nose at |

表 14

「鼻」も「足」と同様3言語に共通する表現は無い。日本語の「鼻にかける」は韓国語にも同様の表現が見られる。韓国語の「鼻が地に付くほど（謝罪する様子）」は意味の類推は可能であろうが、「鼻を落とす（失望する）」は難しい。英語の *nose to nose* は「向かい合って」の意味であるが類推可能である。*to make a long nose at* は「馬鹿にする」の意味であるが理解不可能であろう。

上述の分析から得られる日本人英語話者から見た韓国語と英語の「鼻」の慣用表現への類似性の結果は以下の表15、16である。

| (+L +S) の数 | | (+L +S) と (-L +S) の数 | |
|------------|----|----------------------|----|
| 韓国語 | 英語 | 韓国語 | 英語 |
| 4 | 0 | 6 | 3 |

表 15

| (+L +S) の% | | (+L +S) と (-L +S) の% | |
|------------|----|----------------------|------|
| 韓国語 | 英語 | 韓国語 | 英語 |
| 19.0 | 0 | 28.6 | 10.7 |

表 16

「鼻」については「足」以上に更に類似率が低い。韓国語に対しても類似性が低く、それと相関して英語に対しても低い。しかしながら、Type E に対応するのは韓国語で13、英語で20あるので、韓国語では90.5%、英語では82.1%の「鼻」に関する慣用表現で意味の混乱を生じさせないことになる。

4. まとめ

日本語、韓国語、英語の「顔」、「頭」、「足」、「鼻」の4つの身体名称に関する慣用表現を分析したがいくつかの知見を得た。まず、類似率の高い慣用表現と低い慣用表現に分かれることである。他の身体名称も考慮しなければならないが、身体部位には多文化においての共通認識を生み出しやすいものとそうではないものがあることが予見される。その身体名称に通文化的な普遍的意味機能を持つことが考えられるが更なる検証が必要である。次に、「顔」と「頭」の比較で言えることは、日本語と韓国語間の類似性が高いが、それに比例して英語との類似性も相対的に高いということである。また、「足」と「鼻」では、日本語と韓国語間の類似性が低い、それに比例して英語との類似性も相対的に低いことである。つまり、3言語の身体名称の慣用表現では、類似性、または相違性に相関関係が見られることである。このことは上述の通文化的な普遍的意味機能と関係していると思われる。しかし、このことが今回調査した一部の身体名称の慣用表現にだけ言えることなのか、あるいは広く一般化できるのかは更なる検証が必要であろう。

実際の英語によるコミュニケーション時での慣用表現の使用において、どの慣用表現にも言えることであるが、誤解を生じる確立は少ないと言える。誤解を生じる可能性があるのはType C と Type D の慣用表現であるが、両方とも数が少ない。理解に問題が余り生じないType A と Type B は慣用表現によって多少はあるが、理解はできないが誤解を生じないType E を含めると総数の60%から90%となり、今回取り上げた慣用表現を敢えて会話時に排除する積極的な理由はないと言える。しかしながら、10%から40%の確立で誤解を招く可能性もあるのでそのための対策や手当ては当然必要である。そのような対策として慣用表現の学習ストラテジーが考えられる。英語教育において、先ずType D の慣用表現の学習を優先させ、次にType C の慣用表現を学習し、最後にType E へと進むような学習ストラテジーを採用すれば誤解の確立も減少させることが可能になる。このような学習は非英語母語話者のみに課せられるのではなく英語母語話者も他の英語変種に対して同様な学習を前提とするものであることは言うまでもない。

本論文では一部の限定された慣用表現であるが、いくつかの一般化が可能になった。このような一般化が慣用表現全体になされれば英語の意味領域での international intelligibility の構築に寄与するものと思われる。

注

1. この研究論文は、中京大学平成16年度特定研究助成による研究成果である。
2. 3言語の慣用表現は、林（2002）、東・諏訪部（2003）赤祖父（1992）油谷（1993）、新村（1999）から引用した。例として「顔」の慣用表現のみ資料に示した。
3. 表の網掛け部分は筆者が韓国人英語話者と英語母語話者の立場で慣用表現の理解度を憶測で示したものである。

参考文献

- 鈴木 孝夫（1985）『武器としてのことば』新潮社
- 赤祖父 哲二（編）（1992）『英語イメージ辞典』三省堂
- 油谷 幸利他（編）（1993）『朝鮮語辞典』小学館・金星出版
- 新村 出（編）（1999）『広辞苑』第5版 岩波書店
- Honna, Nobuyuki (2000) 'Some Remarks on the Multiculturalism of Asian Englishes' *International Communication Studies* Vol. X-1, San Antonio: IAICS
- 林 八龍（2002）『日・韓両国語の慣用表現の対照研究－身体語彙慣用句を中心として－』明治書院
- Jenkins, Jennifer (2003) *World Englishes A resource book for students*, London: Routledge
- 東 信行・諏訪部 仁（編）（2003）研究社－ロングマン・イディオム英和辞典 朝日出版
- McGaleb, J. G. & Iwagaki, M (eds.) (2003) *All-Purpose Dictionary of English Idioms and Expressions* Tokyo: Ashahi-shuppan
- 吉川 寛（2006）「国際英語の intelligibility の視点からの英語教育ストラテジー試論－慣用表現に焦点をあてて－」『国際英語学部紀要』中京大学国際英語学紀要第7・8合併号 pp. 41-48

（資料）

「顔」の慣用表現

| | 日本語 | 韓国語（日本語訳） | 英語 |
|----|-------------|----------------|--------------------------------------|
| 1 | 青い顔をする | 顔が真っ青になる | at the first face |
| 2 | 合わせる顔がない | 顔から血の気が失せる | before someone's face |
| 3 | いい顔をする | 顔色をうかがう | blow up in someone's face |
| 4 | 顔色から血の気が失せる | 顔の色を変える | cast/throw ... in someone's face |
| 5 | 顔色をうかがう | 顔色を見る | complain till one's blue in the face |
| 6 | 顔色を変える | 顔の光が変わる | face to face |
| 7 | 顔色を見る | 顔が蒼白になる | face the music |
| 8 | 顔が一変する | 顔を向かい合うことができない | face value |
| 9 | 顔が青ざめる | 顔が上げられない | fall flat on one's face |
| 10 | 顔が合わせられない | 顔が売れる | feed/stuff one's face |
| 11 | 顔が上げられない | 顔が固くなる | fling.... in one's face |
| 12 | 顔が売れる | 顔が立つ | fly in the face of |
| 13 | 顔か利く | 顔が広い | grind the face of |
| 14 | 顔が曇る | 顔が和らぐ | have a face like thunder |

| | | | |
|----|------------|--------------------|---------------------------------------|
| 15 | 顔がこわばる | 顔から血の気が引く | have egg on one's face |
| 16 | 顔が揃う | 顔に泥塗りをする | have two faces |
| 17 | 顔が立つ | 顔を赤らめる | in someone's face |
| 18 | 顔がつながる | 顔を向かい合わせる | in the face of |
| 19 | 顔がつぶれる | 顔の光をうかがう | keep a straight face |
| 20 | 顔が広い | 顔をさらす | laugh in someone's face |
| 21 | 顔がほころぶ | 顔をそむける | laugh on the other side of one's face |
| 22 | 顔から血の気が引く | 顔を出す | a long face |
| 23 | 顔から火が出る | 顔をならべる | look.... in the face |
| 24 | 顔に泥を塗る | 顔を見せる | lose face |
| 25 | 顔に紅葉を散らす | 顔から血の気が引く | make/pull faces |
| 26 | 顔ふれがそろう | 顔の皮が厚い | not be just a pretty face |
| 27 | 顔向けができない | 顔の皮をはぐ (面の皮をはぐ) | not know where to put one's face |
| 28 | 顔を赤らめる | 顔を向かい合って | off the face of the earth |
| 29 | 顔を合わせる | 顔がゼリー状になる (顔がつぶれる) | on the (mere) face of it |
| 30 | 顔をうかがう | 顔を通じる (顔が利く) | put a new face on |
| 31 | 顔をかす | 顔がかゆい (恥ずかしい) | put on a brave face |
| 32 | 顔をきかす | 顔がない (面目がない) | put one's face on |
| 33 | 顔をさらす | 顔の値打ちをする (体面を保つ) | save face |
| 34 | 顔をこしらえる | 顔に黄塗りをする (恥をかかせる) | set one's face |
| 35 | 顔をそむける | 顔に墨塗りをする (恥をかかせる) | set one's face against |
| 36 | 顔を染める | 顔を上げて歩くことができない | shut one's face |
| 37 | 顔を出す | 顔に鉄板をしく (厚かましい) | show one's face |
| 38 | 顔をつなぐ | 顔を見て (体面を考慮して) | slam the door in someone's face |
| 39 | 顔を直す | 顔が割られる (対面が傷つけられる) | slap someone in the face |
| 40 | 顔をならべる | 顔が熱い (恥ずかしい) | Someone's face doesn't fit. |
| 41 | 顔をのぞかせる | 顔がほてる (恥ずかしい) | spit in the face of |
| 42 | 顔を見せる | 顔が赤い大根になる (恥ずかしい) | to someone's face |
| 43 | 顔に書いてある | 見る顔がない (合わせる顔がない) | turn face around |
| 44 | 顔+から血の気が引く | | turn one's face to the wall |
| 45 | 何食わぬ顔 | | was someone's face red |
| 46 | わがもの顔 | | |